71st WAKAYAMA

第71回　全日本中学校長会研究協議会

和歌山大会

きのくに和歌山

古（いにしえ）の道から学びの丘へ！

期　日　令和２年**10月21日**（水）・**22日**（木）・**23日**（金）

会　場　ホテルグランヴィア和歌山（21日・22日）
和歌山ビッグホエール・ビッグウェーブ（22日・23日）

第 71 回　全日本中学校長会研究協議会
和歌山大会

西国三十三所　第一番　青岸渡寺と那智の滝

■主　催　　全日本中学校長会　　近畿中学校長会

■主　管　　和歌山県中学校長会

■後　援　　文部科学省　和歌山県　和歌山市　和歌山県教育委員会
和歌山市教育委員会　和歌山県市町村教育委員会連絡協議会
和歌山県連合小学校長会　和歌山県ＰＴＡ連合会

■協　力　　公益財団法人日本教育公務員弘済会和歌山支部
教職員共済生活協同組合和歌山県事業所　公益社団法人和歌山県観光連盟

大会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」

開催趣旨

今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。

既に、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会構造や雇用環境は急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。こうした背景を踏まえ改訂された新中学校学習指導要領は、いよいよ令和３年度から全面実施となる。

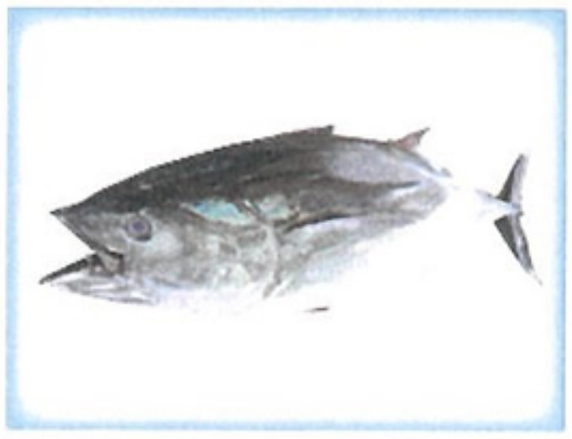
そこで、全日本中学校長会は、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、広く国民の信託に応えるべく、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を主題として、研究協議を進めているところである。

私たち校長は、学校経営の責任者としての使命感や確固たる教育理念とビジョンをもち、課題解決に向けたリーダーシップを発揮していく必要があり、地域住民から支持され信頼される学校の創造は、校長の双肩にかかっている。そのような中、和歌山県における特徴的な教育実践例として、子供たちの命を守る防災教育の取組を挙げることができる。教科書にも掲載されている「稲むらの火」の物語は、本県広川町の濱口梧陵の実話をもとに作られたもので、津波防災教育における貴重な題材となり、防災意識の向上・継承に繋がっている。

そして、この物語を大きな要素とした『「百世（ひゃくせい）の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災　遺産～』のストーリーは、平成30（2018）年に日本遺産に認定された。

本大会においては、これまでの研究成果を踏まえ、全国中学校長会の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の一層の充実発展を期するものである。

和歌山県のシンボル



県の魚『マグロ』

県の鳥『メジロ』

県の木『ウバメガシ』

県の木『ウメ』

大会あいさつ

第 71 回全日本中学校長会研究協議会
和歌山大会　大会会長

全日本中学校長会
会　長　三田村　　裕

第 70 回全日本中学校長会研究協議会群馬大会閉会式における次期開催県代表のご挨拶は、今も強く心に残っています。

「きのくに和歌山　古（いにしえ）の道から　学びの丘へ」との大会スローガンから、悟りを得るために険しく厳しい熊野までを行き来したいにしえの人の姿に、研究と修養を深めるために「教育センター学びの丘」への道を上り下りするひたむきな教員の姿が重なり、また、和歌山県の代表の皆様が語られた熱い言葉の数々に、いい大会になることを確信するとともに、きのくに和歌山を訪れる１年後が楽しみになりました。

当然、新型コロナウイルス感染症の拡大により、その１年後が今のような事態になっていようとは知る由もありませんでした。

群馬大会から約半年後の令和２年４月 23 日、第 71 回全日本中学校長会研究協議会和歌山大会の開催可否を決めるために設置した緊急対策本部会議が開かれ、全国の校長が和歌山に参集する形で行う研究協議会を中止するとの決定がなされました。

全国一斉の臨時休業や緊急事態宣言の発令がなされる状況で覚悟はされていたでしょうが、近畿中学校長会、とりわけ平成 29 年度から準備に当たっていただいていた和歌山県校長会の皆様の思いはいかばかりだったでしょうか。さぞ無念であったかと思います。

しかし、研究協議会は開催できなかったものの、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」との研究協議主題の下、全国各地区校長会が取り組んでこられた熱心な研究の成果を、大会誌としておまとめいただきました。ここに発表された様々な実践や成果は、明日からの学校経営の充実に資するとともに、これからの時代の学校教育の在り方について考える機会となり、ひいては、我が国の中学校教育の更なる充実・発展につながるとても価値のあるものです。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国で様々な取組が中止・延期となりました。しかし、そういう状況でありながらも、誌上発表という形で和歌山大会が実施できました。どのような状況にあっても、私たち校長は研究と修養を止めないとの決意を自ら認識するとともに、それを外にも示したという点で、その意義は実に大きいものです。また、70 回にわたり脈々と営まれてきた全日本中学校長会研究協議会といういにしえの道を、第 72 回となる静岡の学びの丘へと見事に繋ぐことができました。

大会の開催に当たり、御尽力いただいた大会実行委員長であり和歌山県中学校長会会長である楠見 健様をはじめ、近畿地区中学校長会、和歌山県中学校長会、和歌山市中学校長会の皆様に心より敬意を表すとともに、御支援・御指導を賜りました文部科学省、和歌山県、和歌山市、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会をはじめ、多くの皆様に深く感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

大会あいさつ

第71回全日本中学校長会研究協議会
和歌山大会　実行委員長

和歌山県中学校長会
会　長　楠　見　　健

第７１回全日本中学校長会研究協議会和歌山大会は、令和２年１０月に和歌山県和歌山市で開催される予定でしたが、前年末から世界各地に広まった新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研究協議会を中止とし、大会誌の発行をもって書面開催といたしました。

私たち和歌山県中学校長会では、平成２９年９月に準備委員会を立ち上げ、平成３０年２月には実行委員会を、同年９月には運営委員会を組織するとともに、一昨年度の鳥取大会、昨年度の群馬大会の視察も行い、大会が充実したものとなるよう準備を進めてまいりました。

しかしながら、密閉・密集・密接を避けながらの研究協議会の開催が困難であることや、参加者が全国の校長先生方であり万一の場合の影響が甚大であること等から、一堂に集まっての研究協議会を断念しました。ただし、このように大会誌を作成し、全体協議会や分科会で発表予定であった全国の優れた実践や取組を広く周知できたことは幸いであります。ご一読いただき、今後の教育活動に活かしていただければ嬉しく存じます。

さて、和歌山大会では大会スローガンを「きのくに和歌山　古（いにしえ）の道から　学びの丘へ」としておりました。「きのくに」といわれる本県には、古きより身分や階級を問わず多くの人々が憧れを抱き、救いを求め、蘇りを願って目指した「熊野」への道があります。険しく厳しい道程を経てたどり着いた先に、人々は何を見て何を感じたのでしょうか。現代に生きる私たちも目指す理想に向けて歩みを続けており、一つ一つの取組や実践が積み重なって道となっていきます。「教育は人なり」と言われるように、学校教育の成否は私たちの資質能力に負うことが極めて大きく、日々学び続けることが大切であることから、このスローガンを考えたものです。

また、大会シンボルマークには本県自慢の自然、歴史、産物をデザインしました。紀伊半島は、発達した樹林に覆われた豊かな山地、その間を縫って流れる清流、黒潮に洗われるリアス海岸と、自然豊かなところです。そこに、熊野古道や、弘法大師の開創による高野山金剛峰寺、紀伊徳川家の居城和歌山城をはじめ多くの歴史遺産があります。様々な果物が育ち、紀州ミカンは皆様ご存知かと思います。白浜温泉など温泉が各地に湧き出し、パンダやクジラも有名です。これらを、皆の「和」をもって一つにまとめたのが、このシンボルマークです。今の情勢が落ち着いた後には、ぜひ見どころ満載の和歌山をお楽しみください。

今回の感染症拡大に際して、私たちは未知の予測困難な課題に直面しています。この課題を克服し生き抜いていくために求められる力は、まさに新学習指導要領が求める資質能力に他なりません。子供たちだけでなく我々大人にとっても「主体的・対話的で深く学ぶ」ことがいかに重要であるか再認識させられる毎日です。そして、この危機を乗り越えた先に、これからの時代に求められる生活や社会の在り方がはっきり見えてくると思っています。

結びに、大会準備にあたり、これまでご支援ご協力を賜りました多くの皆様方に心から感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。皆様、本当にありがとうございました。